

「尿に血が混じっている」と言われたら」



泌尿器科

ふじい たけし
藤井 猛

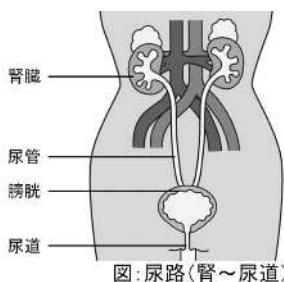
山香病院だより vol.179

はじめに

健康診断や病院の尿検査で、尿に血が混じっているといわれたことはありませんか？見た目に赤くなくても、尿に血が混じっていることを尿潜血といいます。尿潜血は、尿を作る腎臓や尿の通り道の重要な病気のサインです。

健康診断や人間ドックで、約10%の方が尿潜血を指摘されます。男性で受診者の約4%、女性で約12%と男性に比較して女性に多く見られます。また、発見される頻度は年齢とともに増加します。尿潜血陽性の方が、精密検査で腎臓疾患が見つかるのが30〜40%、さらに膀胱がん

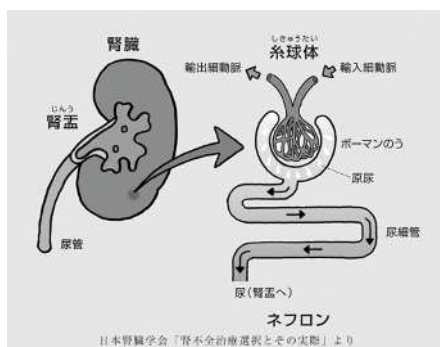
などの悪性腫瘍(がん)が見つかるのは2〜3%です。尿潜血陽性は、膀胱がんなどの重要な病気の危険信号の場合がありますので、症状がなくても健康診断などで尿潜血を指摘されたら泌尿器科などの受診が必要です。



血尿の原因

血尿の原因となる病気は、腎結石、尿管結石などは、尿路結石症、膀胱炎や腎

盂腎炎などの尿路感染症、膀胱がんや腎がんなどの悪性腫瘍(がん)などが代表的です。また、尿潜血と一緒に尿たんばくも指摘されている場合、腎臓で老廃物や水分をろ過する働きを持つ糸球体の病気(糸球体腎炎など腎臓の内科的病気)が考えられるので、腎臓内科を受診されることをおすすめします。



血尿の検査

血尿の原因をしらべるためには、尿にどのような物質が含まれているか調べる尿沈渣、腎臓や膀胱に結石や腫瘍がないか調べる超音波検査、尿の中にがん細胞がないか調べる尿細胞診検査などを行います。以上のような検査で、

なんらかの疾患が疑われた場合には、さらに膀胱内視鏡検査、CT、MRIなどの画像検査を行います。

初期は無症状の膀胱がん

排尿時痛や腰の痛みを伴っている場合は、膀胱炎や尿路結石に伴うものの可能性が高いですが、症状のない血尿でもっとも注意が必要なのが膀胱がんです。

膀胱がんは、初期には症状はなく、50歳以上の肉眼的血尿で最も多い原因です。膀胱がんの血尿は出た

り止まったりを繰り返すので、血尿が止まっても要注意です。

膀胱がんは早期であれば、内視鏡手術のみで治療が可能です。麻酔をかけて尿道より内視鏡を挿入して、電気メスで腫瘍を切除します。

尿潜血は、膀胱がんなどの重要な病気の危険信号かもしれません。膀胱がんは初期には無症状です。症状がないからといってほっておかず、二次健診をうけることが重要です。

図1 膀胱癌(上皮内癌を含む)の年齢層別罹患率(2007年)

